

6. イチゴのナミハダニに対する薬剤の防除効果（情報）			
[要約] イチゴに発生するナミハダニは、多くの薬剤に対して抵抗性を発達させており、効果的な薬剤は減少している。			
研究室名	病虫研究室	連絡先	086-955-0543

[背景・ねらい]

ナミハダニは薬剤抵抗性を発達させやすく、効果の高い薬剤が年々減少傾向にあり、県内のイチゴ産地では、ナミハダニの発生が多く防除に苦慮している。そこで、主要産地のイチゴに発生するナミハダニに対する薬剤の効果を明らかにする。

[成果の概要・特徴]

1. ピラニカ、サンマイル、ダニトロンは、すべての圃場で殺成虫率及び殺卵率が低い（表 1）。
2. コテツ、コロマイルの 2 剤は、殺卵率は全般的に高い圃場が多かったが、殺成虫率はほとんどの圃場で 70%以下と低い（表 1）。
3. バロックは、10 圃場のうち 7 圃場で殺卵率が低い（表 1）。
4. オサダンは、効果の高い圃場がみられたが、全般的に殺成虫率及び殺卵率は低い（表 1）。
5. アファーム、マイルコーネ、カネマイルの 3 剤は、ほとんどの圃場で殺成虫率及び殺卵率が 90%以上ときわめて高い（表 1）。

[成果の活用面・留意点]

1. 同一薬剤の連用は避け、ローテーション防除に努める。
2. チリカブリダニなどの生物農薬を積極的に活用するなど、化学農薬への依存度が少ない防除を実施する。

[具体的データ]

表1 イチゴに発生するナミハダニに対する薬剤の効果（平成19年）

薬剤名	希釈倍数	殺成虫効果									
		岡山市A	岡山市B	倉敷市	総社市	笠岡市A	笠岡市B	赤磐市	久米南町A	久米南町B	真庭市
コテツ（フ）	2,000倍	×	×	△	×	×	×	×	×	×	×
アフーム（乳）	2,000倍	×	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
コロマイト（水）	2,000倍	×	×	×	×	×	×	×	◎	×	×
マイトコーネ（フ）	1,000倍	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
カネマイト（フ）	1,000倍	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
ピラニカEW	2,000倍	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
サンマイト（フ）	1,000倍	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
ダニトロン（フ）	1,000倍	×	×	△	×	×	×	×	×	×	×
オサダン（フ）	2,000倍	◎	△	×	◎	×	△	×	◎	×	×

薬剤名	希釈倍数	殺卵効果									
		岡山市A	岡山市B	倉敷市	総社市	笠岡市A	笠岡市B	赤磐市	久米南町A	久米南町B	真庭市
コテツ（フ）	2,000倍	◎	○	◎	△	×	◎	◎	◎	×	◎
アフーム（乳）	2,000倍	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
コロマイト（水）	2,000倍	◎	◎	△	◎	×	◎	◎	◎	○	△
マイトコーネ（フ）	1,000倍	◎	◎	◎	×	○	◎	◎	◎	◎	◎
カネマイト（フ）	1,000倍	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
バロック（フ）	2,000倍	×	×	×	○	×	×	◎	◎	×	×
ピラニカEW	2,000倍	◎	×	×	×	×	×	×	△	×	△
サンマイト（フ）	1,000倍	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
ダニトロン（フ）	1,000倍	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
オサダン（フ）	2,000倍	○	◎	×	×	×	◎	×	◎	×	×

注）殺成虫率及び殺卵率：◎100～90％、○89～80％、△79～70％、×69～0％

（ ）内のフはフロアブル剤、乳は乳剤、水は水和剤を示す

[その他]

試験研究課題・事業名：イチゴの温暖季多発型病害虫の減農薬防除技術の確立

予算区分：交付金（病害虫防除農薬環境リスク低減技術確立）

研究期間：平成19年度

関連情報等：なし